



PTA新聞

発行所
 山形県立寒河江工業
 高等学校 P T A
 山形県寒河江市緑町148番地
 電話 (86) 4278

第 63 号
 平成22年7月23日



各専門部より

総務部

総務部部长 斎藤清司

日頃より保護者の皆様方には、本校PTA活動に深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。PTA会長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いですが、精一杯頑張つて参りたいと思います。

同時に、こういった行事に参加することによって、親も支援しているんだ！励ましているんだ！というエールが必ず子ども達に伝わると思いますが、是非、PTA活動への積極的なご参加をお願いしたいと思います。

家庭・学校・地域を元気にするPTA活動



PTA会長

酒井原 康志

で親の心構えだそう

話題は変わりますが、六月に県の高P連研修会があり、なるほど！という話を聞くことがありましたのでご紹介いたします。

子育てに迷った時の一つのキーワード

ド、だそうで、それぞれの発達の段階

です。乳児は、しっかりと肌を離すな
幼児は、肌を離せ手を離すな
少年は、手を離せ目を離すな
青年は、目を離せ心を離すな

一例として高校生の場合、少年期でありますから、親としてはいかに目を離さないで観察をしていってほしいのか、重要な子育てのポイントであるということをお話しております。ひとつ参考にしていただければと思います。

最後に、皆様今年一年何卒宜しくお願いいたします。

最後に、皆様今年一年何卒宜しくお願いいたします。

文教部活動について

文教部部长 佐藤勝則

本大会では、地域保護者と生徒、親子が同じチームで力を出してプレーする事により目標を一つにし、心技体や意思の疎通を再確認できる貴重な時間だと思えます。また、大会の運営や準備等におきましても学校、先生方の御協力により成立する事業と考えております。

さて、今年も各地区独自の親子ボランティアが展開されます。この活動は、県内の高校でもめずらしく、寒工カラーが、ひととき色鮮やかに輝きわたっています。今年も寒工の熱きパワーに乞うご期待下さい。

レクリエーションで再確認

体育部部长 武田 健

最後に今年一年総務部活動への協力宜しく御願致します。

体育部では、七月二十五日に本年度事業計画のメインでもあります「第三十三回PTA地区対抗レクリエーション大会」が開催されます。競技はソフトボールとソフトバレーの二種目で、各地区毎での練習の成果が結果に繋がる熱い一日が繰り広げられます。

育成部

育成部部长 阿部 一

朝のあいさつ運動は、六月十四日より三日間、交通事故

朝のあいさつ運動は、六月十四日より三日間、交通事故

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に対して御理解と御協力を頂き、誠に有難うございます。

授業中の校舎を巡ると、生徒の様々な学習活動を見る事ができます。中でも工業実習は動きがあつて見ていても面白いものです。施盤実習、電子回路組み立ての半田付け、コンピュータでのCAD実習、そして測量実習などです。実際に生き生きとそして真剣に取り組んでいきます。これが工業高校なら

経験が生徒を成長させる



校長 吉田 敏明

しかし工業高校では、実習や部活動のように、仲間と試行錯誤を重ねながら一つの目標に向かって進んでいき、その経験が人間として成長させています。とても良い経験をしていると思います。

特に三年生は実習にも慣れ課題研究等に取り組む姿はものづくり職人の顔つきに見えます。生徒を見てみると、高校生活の中で、一年から二年三年へとぐんぐんと大きく成長していくのを感じます。

その一つの例として生徒会常任委員の生徒たちの変化があります。二年で引き継いだときには頼りなく見えた彼らが体育祭や寒工祭などの企画運営をしていく中でたくましくなっています。見違える

ものづくり産業担い手育成モデル事業

高橋 直人

本校は、「地域産業煮担い手育成プロジェクト（文科科学省）・「工業高校等実践教育導入事業（経済産業省）」の共同事業である「ものづくり産業担い手育成モデル事業」のモデル校として、指定を受けました。

本事業の目的は、教育課程の研究・地域ものづくり人材の育成・教員の資質向上の三つを柱とし、創造開発型ものづくりができる人材の育成を目指す事業を展開してきました。この取組みは、工業教育の新しい試みとして、多くの報道機関から取材を受け紹介されたこともあり、各方面から注目を集めています。その昨年度実施した内容の一部を紹介いたします。

◆企業実習プログラム（重点取組み）

本校は寒河江中央工業団地内にあり、その「地の利」をいかし、実習の時間に、周辺の企業四社に出向き、学校では体験できない企業でのものづくり技術の習得や、企業現場の雰囲気を経験しました。

◆地域ネットワークの構築
小中交流事業として「ものづくり体験教室」を二テーマ開催しました。

◆技術者招聘事業
高度な技能を有する企業人による実践的な実技指導等や、一流講師陣による最先端セミナー等を開催し、多くの生徒が技能向上を図る事ができました。

◆産学官連携共同研究
産学官連携事業として、ものづくり（組込み技術等）に関する事、情報通信技術に関する事の二テーマで研究に取り組んでいます。

◆教員研修・実習（重点取組み）
キャリア教育に関する研修では、地域企業の視察や経営者講話を実施しました。（全教員対象）また、ものづくり力向上を目指して企業実習等・技能講習会を実施し、それらの技能を授業等で活かすことができました。

このように、様々な事業を展開してきましたが、本プロジェクトは三年事業で、今年が最終年度となります。今後

成果と課題をまとめ、プロジェクト終了後この取組みをどう継続していくか研究していきます。

最後になりましたが、今年度も企業実習プログラムを実施しています。参加した生徒は貴重な体験を通し、目を輝かせていました。この輝きがあれば将来、地域を担う人材になってくれるだろうと感じています。

これからも本校は、知識・技能の向上を目指すだけでなく、地域社会に貢献できる人材を育成していきたいと思っております。ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。



▶ 企業実習プログラム



高P連県大会に参加して

PTA副会長 高橋善浩

六月十日から二日間「大きな社会情勢の変化中でも、豊かな表現力を発揮し、逞しく生きる高校生の育成を目指して」をメインテーマとした山形県高P連県大会が酒田市で開催され、教頭先生はじめ四名で参加して参りました。PTAの皆様方にもぜひ内容をご紹介し、一緒に考えていただければ幸いです。

県内五十校から三百余名が集い、数校のPTA活動の状況報告などがあり、テーマ毎の分科会で活発な意見交換がありました。近年の少子化や情報化・国際化のうねりと同時に、経済危機の影響から高校生の就職問題にとどまらず社会情勢が大きく変化している状況のようでした。県内就職率が半分というある工業高校も有りました。このような中で、教育に取組む山形県では「いのち・まなび・かかわり」を目標に色々な活動を進めているそうです。これら目標達成のためには、学校教育はもちろん、家庭や地域が一体となり進めなければ難しい課題かもしれません。数校のPTA活動報告を聞いて、家庭や

地域のかかわり方がいかに重要かを物語っていたようです。幸いにして寒河江工業高校は、地区PTA活動も充実しており、学校の立地条件の良さから、各企業からも協力を得ています。よりよい子供たちの育成のためには、PTAを組織している私たち自身が理解し、自分が出来ることを出来るだけ行動することが重要と教えられた想いでした。

ぜひ、皆さんも家庭で出来ること、地域で出来ること、PTAで出来ることを考え、将来大人になる子供たちのためにアクションを起こしてはどうでしょうか。考え行動できるのは私たちだけです。日本を担うエンジニア育成には、寒河江工業高校が頑張るしかありません。PTAもいっしょに頑張りましょう。



若草のみち活動

「若草のみち」花いっぱい運動・植栽活動が今年も6月4日(金)に、本校生徒職員・中央工業地76社・町内会の方々で総勢500名で、西寒河江駅前Y字路から米沢十字路までと学校周辺幹線道路に、花苗2000ポットの植栽と除草活動を行ないました。これは昭和52年、地域・企業・学校とで学校前道路を交通安全模範道路と設定し、交通安全運動の推進と花いっぱい運動の植栽活動を通して交通安全の啓蒙に努めてきたのでした。本校では地域に根ざした教育の一環でもあり、地域そして企業団体と一緒に行動することにより、一層意義が深まるということで、地域企業の方々のアドバイスを受けながらの植栽活動を行なっています。この「若草のみち」も年々、県内外からの企業への交通量も増え、各方面から好評を得ているとの事です。これからの季節、より色とりどりの



花が咲き通行人を尚一層に安全運転に導いてくれる事と思います。

ボランティア・シリーズ

西川地区PTA会長 板花正明

今年度も西川では、国道沿両側歩道のゴミ拾い作業を予定しています。

西川町は、大井沢から熊野地区と、区域範囲が長いこともあり、町全体には手が届きません。そのため、町の中心部である水沢から睦合までの区間のゴミ拾いを行います。

現在、町全体できれいな町づくりに取り組んでいる状況です。道路の維持管理も徹底していますが、国道となると、夜間の大型車や他県の車等も多く通るため、たばこのポイ捨てやコンビニの空袋の投げ捨てなどが見受けられます。

まもなく海水浴シーズンにも入り、例年同様に交通渋滞が多くなる時期となってきます。その前に、私達の小さなボランティア活動を通して、町全体の「きれいな町づくり」に協力していきたいと思ひます。

大江地区PTA会長 鈴木茂

当地区では、毎年2つの町営保育園を交互に、廊下のワックス塗りとガラス磨きのボランティア活動を行っています。

昨年は、8月2日さくら保育園に保護者31名、生徒18名の参加で行いました。アイスやスイカを沢山いただき、2時間30分のボランティア活動を終了しました。

終了後、若原区のコミュニティーセンターを会場に、3年生激励バーベキュー食事会を保護者25名、生徒18名の参加で行いました。3年生の大食いが話題を集めました。

今年も8月1日に、わかば保育園でボランティア活動、終了後にはテルメ柏陵のレストランのオードブルで3年生の激励会を行う予定です。

現在は、昨年幸運にもじゃんけんで優勝したソフトボールの二連覇を目指して、ソフトバレーと共に頑張っているところではあります。



県PTA指導者研修会に参加して

PTA副会長 兼子 忠雄

この度、PTA副会長を務めることになりました兼子忠雄です。あらためて宜しくお願ひ致します。

先日七月三日、山形の遊学館に於いて、表題の研修会に参加してきました。私にとつて久しぶりに有意義な一日となりました。特に午後からの分科会では、県内各地の高校三十一校のPTA関係者約四十名が集まり、『元気な学校をつくるPTA』と題して、県立鶴岡中央高等学校温海高校からの発表がありました。温海校PTAは、昨年のPTA活動が認められ、今回、高校PTAの部で、唯一、県教育委員会から優良表彰を受けた団体であり、地域(学校)の特色を活かした内容であり、自分なりに感じた所を述べたいと思います。

鶴岡中央高温海校は、昨今の生徒数の激減(現在生徒数二十八名、内、新潟県村上市の山北地区から十二名)により二年後の閉校が決まっている学校です。特色の一つは、この少人数を活かした活動です。紹介された活動内容は、桜マラソンボランティア、花壇整備、カブの栽培に収穫作業、全校競争(温海から由良まで十七〜八キロメートル)、海岸清掃、足湯清掃、ヨット教室、釣り大会、芋煮会、スポーツ、学校祭でのビッグアクト制作に、名物であり自慢の天鼓太鼓等。いずれの活動にも積極的に参加しているとの事です。本日は、この中の天鼓太鼓について、自分が感動した事や、その生い立ち、今後の行く末などをお伝えしたいのですが紙面の関係上割愛させていただきます。尚、この天鼓太鼓が学校唯一のクラブ活動であり、最近まで四回、全国高校総合文化祭に出場してきたとの事です。このように、PTAが積極的に学校行事に係わる事に色々な意見が出そうですが、只、こういう活動が認められているという事に着目して欲しい、と思うのです。結局、一人一人の力では、点の世界しかありません。皆が力を出し合っ、大きな輪を作っています。

正射必中

弓道部顧問 中村 和彦

三年生が県高校総体を最後に引退し、現在二年生一七名、一年生七名の二四名で活動しています。二年生主体の初めの大会となった国体地区予選において団体で優勝することができ部員には大きな自信になりました。保護者、寒工OBコーチの支援に感謝申し上げます。

二年前の県大会優勝、東北大会第三位、全国大会では決勝トーナメントまで進んだ先



サーベイコンテスト

顧問 浩平

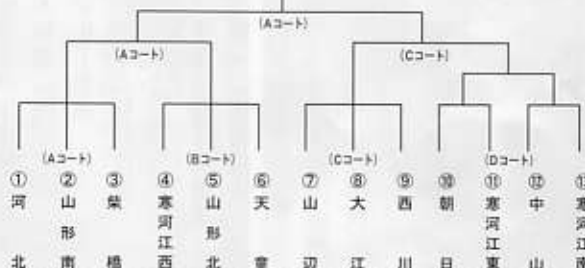
第十八回サーベイコンテストが六月二日に行われました。



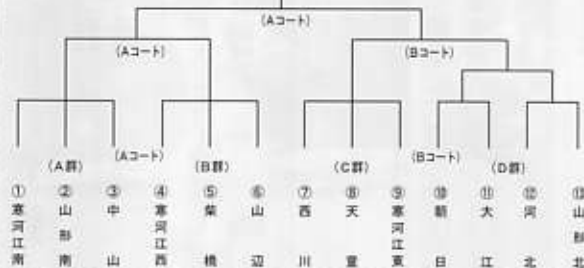
この大会は六月三日測量の日の記念事業として、県内の測量学を学ぶ高等学校が参加し行われます。大会では面積を図る平板測量、高低差を測る水準測量、距離・角度を測るトータルステーションの三部門に分かれています。本校からは土木科の生徒十二名が参加しました。毎日夜遅くまでの練習、また、多くの応援やご協力を頂いたため、三部門とも第三位という結果を残すことができました。ありがとうございました。

ソフトボール組合せ

【ソフトボール組合せ】(H22年)



【バレーボール組合せ】(H22年)



新任の先生より



私は、中学生の頃から、パソコンでメールやインターネットに興じたり、パソコンを自分なりにカスタマイズしたりして楽しんでいました。それがきっかけでコンピュータについてもっと専門的なことが勉強したいと思ひ、大学は工学部に進みました。今ではものづくりの面白さを肌で感じる毎日です。コンピュータだけでなく身の回りがある様々なものの仕組みが

ものづくりの楽しさ

教諭 阿部映理子

系は工業です。工業系の学問は難しい部分が多いので、生徒も苦戦することが多いのですが、彼らにはものづくりの基礎としてたくさん知識を得て、素敵なエンジニアになってもらいたいと思っています。

寒工「手洗い事情」

保健部より

「輝くエンジンシア」を目指し、暑い日も長袖の実習着に身を包んで実習に励む生徒達。制服姿よりもちよっぴり大人っぽく見えるのは私だけでしょうか。高校は、それぞれがその特殊性を生かし学習に励んでいるわけですが、病気の流行り方にもそれぞれ特徴があるなあと感じています。圧倒的に男子生徒の多い本校では、一般的には冬季に流行する感染性胃腸炎などが、通年に亘り流行の傾向があります。そこで、保健室にきた生徒に「食事の前に手洗いですか？」と尋ねてみました。す

ると当たり前のように「すね(しない)」という答え。「じゃあ、トイレの後は？」と私が恐る恐る尋ねると、「たまたまだな」とあつさり答えられてしまいました。中には、自信を持って「しない」と答える生徒もいて、私の手洗いに對する意識が大きく変化したのは言うまでもありません。折しも、昨年度は新型インフルエンザが大流行。こちららも、病気の予防の基本は、手洗いです。今さら...と思うかも知れませんが、手を洗う行為は、大人になっても病気から身を守る大切な手段なのです。卒業後は、多くの生徒が社会に旅立っていきます。教科の学習も然ることながら、生活面での学習もしっかり身につけて欲しい...そう願う毎日です。

進路指導部より

進路指導部長 阿部 繁憲

就職に関して今年度も厳しい情勢が予想される。一つは、本校が五月半ばから行った企業訪問151社の求人状況の聞き取り調査で、A「求人する(決定)」と答えた企業は12社(8%)、B「求人したい」が23社(15%)、C「未定・不明・検討中」は79社(52%)、D「求人しない(決定)」は37社(25%)である。AとBを合わせた率は昨年度とほぼ同数で、Dが7%減少し、Cがやや増えている。二つ目は、県内の一般有効求人倍率は、19年度が0.91、リーマンショックのあった二〇年度は0.63に低下し、二十一年度には更に0.36となった。昨年五月の0.28を最小

に、現在ほぼ0.40を推移している。これらのデータが示すように、今年度も求人数は少なく、就職受難は続きそうである。従って希望する会社に入社してもらえない人間であること、そのためには会社を研究し、自分を磨かなければならない。

進学については、昨年度難易度の高い工業系大学と医療系の学校に苦戦した。普段の授業を大切に、講習でも粘り強く学習を積み重ねる「魂」が必要だ。もう一つ、オープンキャンパスをいくつも体験して失敗しない学校選びをして欲しい。

生徒、保護者・職員、同窓会など一丸となってこの難局を乗り越えよう。

教職員の異動

【(一)退職】

- 青木 三義(事務長)
- 工藤 清(土木)
- 狩野 芳次(電子機械)

【(二)転出】

- 安孫子善一(機械)
- 山形工業高
- 齋藤 秀志(情報技術)
- 県教育センター
- 後藤 淳子(主査)
- 衛生研究所
- 高橋 実(業務員)
- 天童高

- 【(三)転入】
- 新野 秀夫(事務長)
- 監査委員事務局監査課
- 佐々木裕章(機械)
- 東根工業高
- 阿部映理子(情報技術)
- (新規採用)
- 櫻田 隼至(電子機械)
- 佐藤 新一(情報技術)
- 熊谷 貴子(主査)
- 村山総合支庁西村山総務課
- 丸山 裕之(学校技能員)
- 荒砥高
- 中川 知行(校務補助)

PTA新聞の名称募集について

本校のPTA活動はとて活発でありながら、その活動内容をお示しするPTA新聞の名称が現在『PTA新聞』となっております。そこで今年度の文教部会で「PTA新聞に名前をつけよう！」ということになりました。寒河江工業高等学校のPTA新聞ということ

で、本校の活動内容に沿った相応しい名前を皆様方に公募したいと思ひます。今後の流れは①十一月中旬にお子さんを通じて公募の用紙を配布します。②十二月上旬のPTA新聞編集会議にて選考いたします。③二月中旬発行予定の第六十四号PTA新聞にて選考結果を発表いたします。皆様のご意見を伺いたく、これからの本校PTA新聞の名称になります。たくさんのご応募をお待ちしております。

